

14:00  
〜  
15:10

# トークセッション Fine名誉会員証の贈呈

## 子どもを持つ、育てるということ ～“不妊”や“妊活”の視点から～

男性不妊を経験した作家・ヒキタ クニオさん、  
「婚活」が流行語大賞にノミネートされた白河桃子さん。  
ただいま妊活中の人も、「いつかは子どもを」と思っている人も、  
ぜひ知っておきたい妊娠・不妊の現状とココロの話、そしてカップルのこと。



NPO法人  
Fine名誉会員  
第5号

ヒキタ クニオさん  
作家

実際に治療を始めてみると、男性への治療に対する素朴な疑問や違和感がたくさんありました。

また、同じように不妊治療で苦労している仲間が多いことを知り、もっと治療を公言できる環境になることで、周囲の人の想いや行動を変えていくことができるんだと思っています。

身体を合わせることが少なくなる不妊治療だからこそ、今まで以上に夫婦の心を合わせることが必要。

女性には「男性も不安や違和感を感じていること」を、男性には「女性の受ける心身の痛み」を、お互いがお互いの気持ちをいたわり、たくさん話し合って強い絆を築いていくことが必要だと思っています。

1961年福岡県生まれ。イラストレーター、マルチメディアクリエイターとして活躍後、2000年『凶気の桜』（新潮社）で小説デビュー。同作品は窪塚洋介主演で映画化、第2作『鳶がクルリと』（新潮社）も映画化される。2006年、『遠くて浅い海』で第8回大藪春彦賞受賞。2012年、自らの不妊治療体験を綴った『ヒキタさん！ご懐妊ですよ』（光文社）が話題に。近著『裸色の月』（文藝春秋）発売中。

### <ヒキタさんの妊活歴>

2006年 タイミング法を開始。カレンダーに○印をつける日々が始まる。  
不妊治療に対する恥ずかしいという気持ちに抗体を付けるべく公言したところ、周囲に不妊治療経験者が多いことに驚く。

2007年 精液検査で「精子の運動率20%」の結果に衝撃をうける。医師のすすめで人工授精へステップアップ。

2008年 人工授精8回目に妊娠陽性反応。タイミング法から24連敗後の1勝。このときの精子の運動率は70%！しかし、妊娠3カ月で流産。しばらく治療を休み、再び人工授精にトライ。

2010年 人工授精18回。ついに顕微授精に進む。1回目は受精卵が育たず胚移植中止。2回目の顕微授精で陽性反応。

2010年 5年弱の不妊治療を経て、11月に長女・空ちゃん誕生。



男性不妊についてリアルに学べる！

『ヒキタさん！ご懐妊ですよ』

男45歳・不妊治療はじめました』（光文社）

冒険的人生を送ってきた著者が、45歳を過ぎて思い立った子づくり。しかし、精子の運動率が20%と判明、「懐妊トレーニング」の日々が始まる。男の不妊治療の素朴な疑問や違和感、苦労する仲間の多さを実感。さらに女性が受ける心身の痛みに気づき、夫婦間に強い絆が生まれる。5年弱の「懐トレ」の末、我が子を腕に抱くまでのドキュメント。

